

「マラウイ便り」 ～工事進行～

Vol. 4

暑い・暑～い12月。じっとしていても汗がにじみます。本格的な雨季の前に工事を終らせるべく、完成を急ぎます。なぜなら乾季は水がほとんどない河川でも、雨季には増水し、道路がぬかるむため、現地に近づくことすら難しくなってしまうからです。マラウイでは、小規模の灌漑工事では、農民が労務を提供する住民参加型の施工が一般的です。現場作業は技術者が中心となり、農民を指導しながら構造物を作っていきます。我々、灌漑事務所職員の役割は、工事の進捗状況を管理し、どんな施設をどのように造るのかを指導することです。このため適期を見計らい現地を訪れ、水路の路線、勾配を測量し、どのように進めるのか決定していきます。

工事には男性だけでなく女性も参加し、上手に役割分担をしながら作業を進めています。女性の主な役割が、建設資材の運搬で、砂や岩石など重い建設資材も世間話をしながら頭に寄せ、現場まで運んでくれます。一度、運び方を体験させてもらいましたが、一朝一夕では真似できるものものではないと実感しました……。私にとっては長年の修練が必要です。関係者が自分たちの施設を、自分たちの力で建設することは完成後の維持管理についても理解が深まり、素晴らしいことだと感じるとともに、みんなで協力して作り上げたものだからこそ、大事に使ってくれるのだと思います。

現場を訪れた際には、作業に時間がかかってしまい、昼を跨いで作業となるため、お昼をごちそうになることも珍しくありません。作業員のための昼食は、村の女性の方が用意をしてくれます。シマ+オカズ一品（写真では野菜のトマト炒め）等、素朴な料理ですが村で食べるシマは、自分で作るものとも街中で食べるものともひと味違い、不思議と一番おいしく感じます。



写真①：小規模灌漑工事の様子



写真②：工を手伝う女性たち



写真③：村での昼食



写真④：完成した堰

明日使えるかもしれないチェワ語：Ndiameneyo. (ディイメネヨ) 「素晴らしい！」